

# 日本短角種一貫生産体系整備モデル事業における肥育成績

(畜試 肉牛部)

## 1 背景とねらい

県では安くておいしい牛肉の周年供給をめざして日本短角種一貫生産体系整備モデル事業を昭和57年8月からスタートさせ2年を経過した。2年目(昭和58年8月~59年7月)の成績について初年度の成績と比較検討したので参考に供する。

## 2 技術の内容

毎月30頭の出荷目標に対する達成率は10%であり目標を達成した。出荷体重(564kg), 出荷月齢(22ヵ月齢), 枝肉歩留(58.1%), 皮下脂肪(1.8cm), 正肉歩留(74.3%)等は平均値では目標に達したが依然としてバラツキの大きいのが問題であるが出荷月齢, 枝肉歩留等はバラツキが減少の傾向がみられる。

最も重要な精肉歩留は84.4%で目標(85%)を若干下回ったが前年に比較すると0.7%向上している。事業の規格物である並の上の割合は48%であり前年に比較し3%向上したが依然として低値である。枝肉単価は1345円で7円向上している。

## 3 指導上の留意事項

出荷時体重は岩手畜産流通センター着体重であり, 枝肉歩留は水引重量に対する値である。

## 4 参考文献・資料

岩手県畜産試験場 試験研究会議資料 57年, 58年

## 5 試験成績

### 1) 出荷頭数 目標 毎月30頭

毎月30頭の出荷目標に対して8月を途く11ヵ月は目標を達成した。前年は3月から7月までのいわゆる端境期に目標未達成となっているが2年目は雌肥育(24%), 春導入(13%), 2シーズン放牧肥育(陸中), 素牛購買時の出生月の分散(3,4月生れ61%)等により端境期の解消に務めた。今後さらにスムーズに周年出荷を行うには舎飼期における人工授精等により11月以降の分晩を積極的に導入し分晩時期の分散を図る必要がある。

### 2) 出荷月齢

出荷月齢の平均は22.0ヵ月であり, 望ましい出荷月齢となっているが, 月毎にみると18.7ヵ月から25.4ヵ月まで6.7ヵ月の中があった。これは前年に比較すると2.7ヵ月の減少となり, 個体では15.2ヵ月の中があった。

18ヵ月未満の若齢牛は46頭(13%)であり, 肉の成熟が十分でなく短角種の評価を下げる一因となっているので出来るだけ20ヵ月以上の出荷が望ましい。

### 3) 出荷時体重 目標 550~570kg

出荷時体重の平均は564kgであり, 前年より12kg小さく目標の範囲内であった。しかし, バラツキが大きく目標の範囲内にあったものが全体の24%であった。これは前年より4%向上している。なお549kg以下は35%, 571kg以上は41%であり, 前年より過大化の傾向は是正されてきている。500kg以下の牛が17頭(うち雌12頭)もあり, もう少し体重をそろえる努力が必要である。

### 4) 背脂肪の厚さ 目標 2cm以下

背脂肪の厚さは平均1.8cmであり、目標の2cm以下の規準を満した。2cm以下の規準を満した頭数の割合は81%であり、良好な成績といえるが、中には3cmを超える厚脂もみられた。筋間脂肪の多い牛も多くみられる。本品種の欠点の一つである脂肪厚については粗飼料を多給する肥育法、出荷適期、改良等の面から改善しなければならない大きな項目の一つである。

5) 枝肉格付および枝肉単価 目標 「並」の上(脂肪交雑0.5)1400円

規格牛の割合は48%であり、前年に比較し3%向上している。農協毎にみると陸中(65%)13%、岩泉(46%)6%が向上し安代(34%)9%が低下した。また雄の規格率は47%、雌は52%であり、若干雌の規格率が上回った。出荷月齢と規格牛の出現率をみると22~24ヵ月齢となっており24ヵ月以上では逆に低下している。また体重でみると550~570kgが高くなっている。規格牛の割合は肥育農家毎および種雄牛毎に差がみられる。適正な飼養管理および素牛導入等に配慮する必要がある。

6) 正肉歩留 目標 74% 42.9%(生体に対して)

枝肉に対する正肉歩留74.3%であり目標に対して0.3%上回ったが前年に比較すると0.3%下がった。正肉歩留もバラツキが大きく81.3%~68.3%まで13%の中があり、前年の10.2%から差は拡大したが変動係数では変わらない。

7) 精肉歩留 目標 85% 62.9%(枝肉に対して) 36.5%(生体に対して)

精肉歩留の平均は84.4%であり、目標を0.6%下回った。前年に比較すると0.7%向上した。また雄では84.9%、雌82.8%であり雌の歩留の悪いのが目立つ。精肉歩留の最高は91.2%、最低は77.9%であり目標の85%以上の割合は47%であり前年の30%を大きく上回った。なお出荷時体重に対する精肉歩留は36.5%であり、目標に達した。

8) 販売先

当事業に出荷された365頭中、市民・県民生協、ベルマート販売された枝肉は89%(規格牛93%)であり、内訳は市民生協159頭(規格牛79頭)、県民生協49頭(同27頭)、ベルマート117頭(同56頭)である。

事業は1量販店に1農協の指定方式をとっているがこれで見ると安代→市民生協46%、陸中→県民生協13%、岩泉→ベルマート43%となっており必ずしも指定方式が守られていない。